

セーフティ・かわつ（島根県）

活動地域

島根県松江市から参りました。セーフティ・かわつの名称で「かわつ」というのは、これは私たちが活動する地域の名称です。川津地域は城下町であり、国際観光都市でもある松江の中心市街地の東部に位置しております。



かつての川津地域は、自治会が7地区、約4,000人くらいの準農村地帯でした。それが昭和40年代から、地域の中心を流れる川の改修、土地区画整備事業が進み、大規模住宅団地が造成され、一戸建て住宅、アパート、マンションが建設されて人々に移り住み、また、大型ショッピングセンター等の商業施設、事業所、居酒屋、娯楽施設等が進出して、学園通り商店街が建設されました。今では自治会が45地区、人口約1万6,000人の地域に飛躍的に発展しました。農業はグッと減っております。田んぼがほとんど住宅地になりました。そして地域の特徴の一つには、1キロの範囲内に、保育園、幼稚園、小学校、中学校、県立高等学校、県立養護学校、そして大学法人島根大学もあり、学園都市とも呼ばれております。学園通り商店街は夜になりますと、居酒屋、カラオケルーム等が繁盛し、24時間を通じて賑わっております。今ではかつての松江市中心街の市街地は空洞化し、シャッター通りと化しておりますが、川津地域はそれにとってかわり、中心市街地となりつつあります。

余談になりますが、松江市には原子力発電所、原子炉が3基あります。県庁所在地に原子力発電所があるのは、全国では松江市だけだそうです。松江市のほとんど全域が原子力発電所から10キロ範囲内で、私たちの住む川津地域もそうです。福島原発のような事故が発生すれば、川津地域住民も含めて、松江市民約20万人の生命が脅かされることとなります。事故発生時の避難訓練等が実施され、私たちも訓練への参加と支援などを考える必要を感じております。

川津地域の犯罪発生状況について簡単にお話しますと、地域の発展はいいことばかりではありませんでした。セーフティ・かわつを結成して活動を始めた平成15年頃には、女性の一人住まいのアパートへの侵入事件、女性の下着の盗難事件、川の土手での声掛けつきまとい事件、24時間営業のマンガ喫茶店の強盗事件、大型スーパーなどでの窃盗事件などが相次ぎ、県下の犯罪発生件数でした。私たちが活動を始めて10年になりますが、年々犯罪発生件数が減少し、大きな犯罪は発生しておりません。現状に甘んじることなく、地道に活動を継続する事が重要であると肝に銘じております。

16 団体の一つに島根大学があります。地域の防犯ボランティア団体に、大学として学生が参加している例は少ないと思います。島根大学は約 6,000 人が在学しております。入学式が終わり新学期が始まった時期に、学生支

学生のボランティア活動参加は、平成 20 年から始まりました。当初は 60 人くらいの参加でしたけれども、年々増えておりまして、今年、平成 25 年には、外国からの留学生 12 人を含む 111 人が活動に参加をしております。学生の参加は大きな戦力であり、心強く頼もしく感じております。また大学も全面的に協力し、防犯活動に参加した時はポイントを与え、そのポイントで学内の購買で学用品を買うことができるシステムとなっています。



活動の概要



具体的な活動ですが、夜間のパトロール、子供の登下校時の見守り活動、万引き防止活動、自転車盗難防止活動、鍵かけ運動、振り込め詐欺などの犯罪被害の防止活動、島根大学校内での自転車盗難防止の鍵かけ啓発運動、犯罪に強い地域づくりのための調査・提言などです。

振り込め詐欺などの犯罪は全国的に増加傾向にあります。島根県下においても増加しており、最近被害額 1,000 万円の事件が発生しました。

私たちは A T M が設置されている大型スーパーやコンビニの店頭で年 6 回、年金支給日に被害防止チラシを配布して注意を呼び掛けています。これも学生に協力していただいています。また、民生・児童委員による高齢者宅、一人住まいの老人宅訪問の際に、被害防止の指導をお願いしております。現在までに私たちの地域で被害は発生しておりません。こうした犯罪は、次々と手口が変わり巧妙化していきますので、被害防止活動をする私たちと犯人の知恵比べです。



次に「川津ほんそ子まもら会」の結成についてです。ほんそ子というのは、出雲弁でかわいい子、愛らしい子という意味です。平成 16 年頃から子供に対する声掛け事案、女子児童、生徒に対するつきまとい事案が発生しました。当時、私は民生・児童委員をしておりました関係で、中学校の校長から相談を受けました。民生委員の間で相談をした結果、被害があってからでは

遅いのでみんなでやろうということが決まり、子供の見守りを始めたわけです。民生員 27 人が 3 個班に分かれて、学校からいただきました通学路ごとに拠点を決めて、見回りを始めましたが、これは私たちだけでは難しいということで、セーフティ・かわつの中に守ら会も入れて活動しようということになり、見守り活動を月曜から金曜までの毎日、登下校時に実施して 8 年が過ぎました。

児童生徒にも、今、私が着ておりますベストを着用した人は良い人だから何かあれば相談しなさいよということで安心感も与えて、毎日やっております。年末には、小学校からお世話になっている地域の皆さんに感謝の集いが催され、私たちも招待されます。この活動が地域に浸透し、団体に所属していない住民の人も、家の前の庭掃除、犬の散歩、買い物、畑仕事などの日常生活の場でこのベストを着てもらっています。



いわゆる青パトも17年7月から、公民館の車を借り出しまして、そしてマイカーも4～5台加えて実施しております。毎日1車4人で、特に下校時を警戒をして回っております。

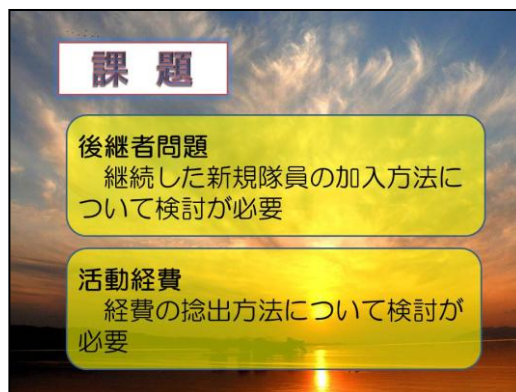
次に、暗いところマップですが、これは島根大学の学生さんが大学付近が暗くて危ないということから16年に始まったものです。学生さんと我々が一緒になって約1カ月半かけて調査して、町内会にお願いをして暗いところに防犯灯を設置していただきました。

23年には2回目の調査をして、今度は34基の青色防犯灯を設置しました。さらに学園通り商店街と県警本部で防犯カメラを5台設置しました。

活動の効果と今後の課題

今後の課題でございますが、これは我々も年々高齢化してきますので、少し若い人を入れて交代しているということです。そして経費もかかるわけですが、経費についてもなかなか予算がございません。各団体をお願いをして、助成をしていただいているというのが現状です。

終わりに、近年社会環境が大きく変化して、地域社会の構造の変化、そこに住む人々の連帯や規範意識の希薄化などによって、地域社会における犯罪抑止機能の低下が指摘されております。地域住民の皆様から、私たち防犯ボランティア組織、セーフティ・かわつの活動に対する大きな期待があります。地域の絆を深め、安全なまちづくり活動の重要性をあらためて感じております。セーフティ・かわつの活動スローガンであります「私たちの地域の安全・安心は、私たちの手で守る」という決意を新たにして、明日からの活動を頑張っていきたいと思っております。ご清聴、誠にありがとうございました。



質疑応答

●質問 平成 23 年度には 5 基の防犯カメラを設置されたということで、私どもも防犯カメラの件については頭を悩ましていまして、我々ボランティアで設置すると、設置費用の問題やランニングコストの問題があると思うのですが、その点はいかがでしょう？

○回答 私も県警本部に相談をしまして、県警本部と商店街、他の各種団体にも呼びかけていただき、私ども地元は一銭も出しておりません。運営は商店街で運営管理をさせていただいております。

●質問 地元の島根大学と連携して暗がり調査などもやっておられるということですが、大学生と活動をされてどのような効果がありますか？

○回答 子供さんと我々年寄りとは相当年齢差がありますから、学生に間に入っていただく、歯車的に入っていただくと、子供さん方が学生をものすごく喜ぶんです。だから見守り活動を含めてですけども、我々が行います町内の祭りにも、やっぱり学生が参加してくれます。そうすると子供が喜び、そのようにして絆を深めていっています。

学生にとっても、子供を見守るボランティア活動に参加するというのは、将来社会に出てからも役に立つのではなかろうかと思っています。